



投資環境

2023年1月5日

卯は跳ねる？

□ 2022年は不安定な動き

2022年は十干では“壬（みずのえ）”、十二支では“寅（とら）年”にあたりました。「寅千里を走る」という格言がありますが、過去の成績※どおり、株式市場はさえない動きになりました（図表1）。

また、“寅”は人やものの勢いが非常に盛んな様子のたとえとされますが、逆の意味でロシアによるウクライナ侵攻や米国の急激な利上げなどに大きく振らされた年になりました。

※2021年までの60年間のTOPIX（配当なし）の平均騰落率は、“寅年”は十二支の中で7番目、また1勝4敗と勝率は2割で最も低い年。

□ “卯年”の勝率は平均的、“癸”については過去4回負けなし

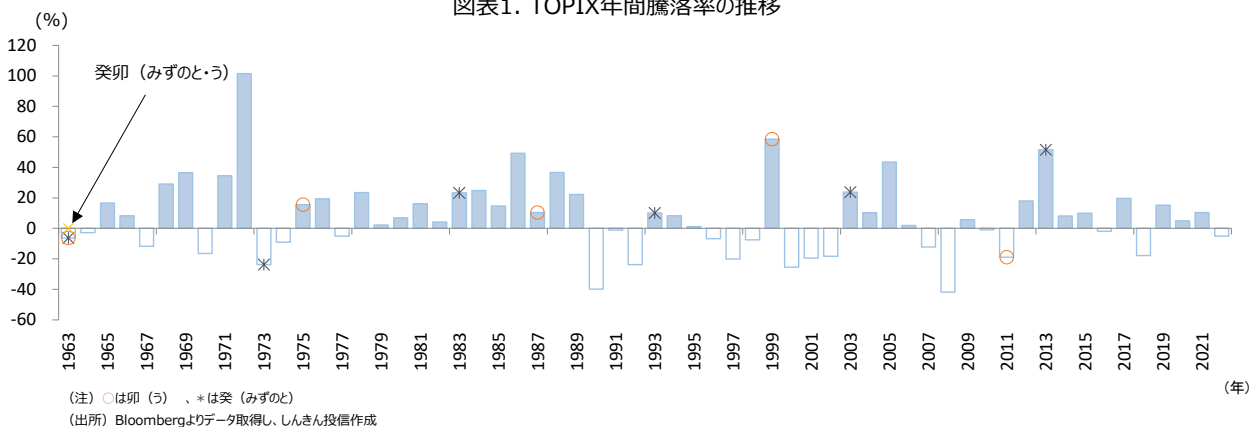
2023年は十干では“癸（みずのと）”、十二支では“卯（う）”にあたります。干支にちなんだ相場の格言は「卯（うさぎ）は跳ねる」です。“癸”は次の新たな生命が成長し始めている状態、“卯”は景気回復、好転するよい年になるとも言われています。

過去60年間のTOPIX（配当なし）の平均騰落率は、“卯年”は十二支の中で5番目、また3勝2敗と勝率は6割で平均的な水準です（図表2）。“癸”については、十干の中で3番目、また4勝2敗と勝率は67%でやや高い水準です（図表3）。過去4回は負けなしです。

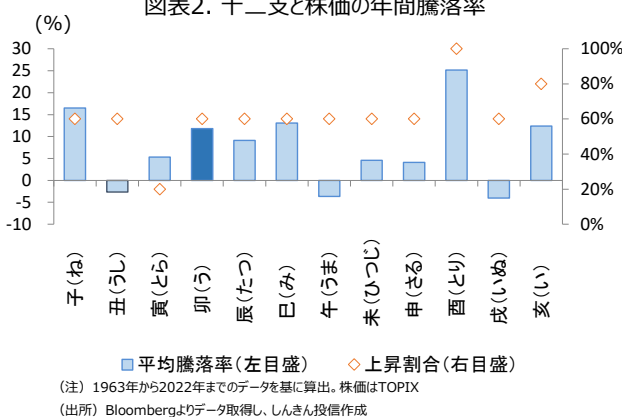
□ 年前半は不安定ながら、後半は持ち直す動きか

今年も引き続き、ロシア・ウクライナ戦争、米国の金融引締め、日銀の金融政策運営、国内や中国な

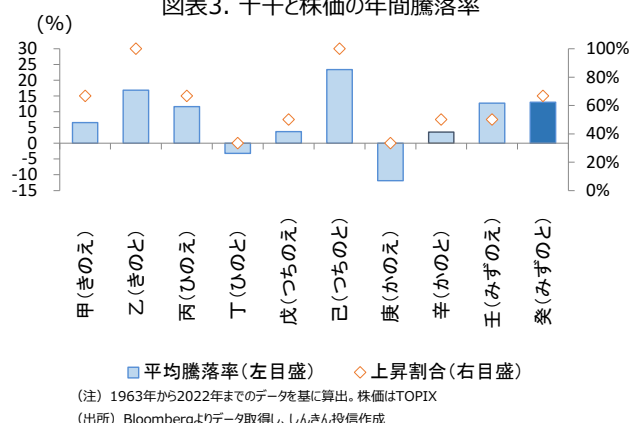
図表1. TOPIX年間騰落率の推移



図表2. 十二支と株価の年間騰落率



図表3. 十干と株価の年間騰落率





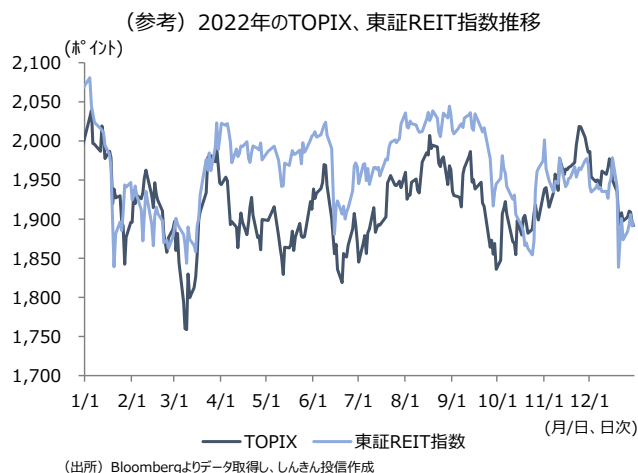
しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

どの新型コロナウイルスの感染動向などに振られながら戻りを探っていくことになりそうです。

ロシア・ウクライナ戦争については終結が見えない状況です。一方、米国の金融引締めについては、前半には利上げが停止されるとの観測が強まっていることは安心材料です。利上げ停止までは上値の重い展開が予想されますが、後半にはインフレや景気動向次第では利下げに転じるとの観測が強まると、投資家心理が上向くことも想定されます。

日銀については、黒田総裁が4月に任期満了となることから、新総裁選びや総交代後の金融政策をめぐる思わくは前半は振られる可能性があります。もっとも、日銀は昨年12月に事実上の利上げに踏み切りましたが、国内の物価上昇が落ち着いてくるとの見方に加え、円安が修正されていることなどから、当面、今回の措置の影響を確認していくとみられ、緩和的な金融環境が続くことが見込まれます。

内外の新型コロナウイルスの感染拡大は重しながら、経済再開やインバウンド需要への期待も相場を下支えしそうです。



(シニアストラテジスト 鈴木和仁)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: <https://www.skam.co.jp>

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。